

生成 AI との対話が就職活動における就活生の心理的支援に

どのようなプロセスで影響を与えるのか

武蔵大学 経済学部 経済学科 4 年
森永ゼミナール所属 1221038 岡本美音

近年、生成 AI「ChatGPT」等の技術進歩と普及に伴い、就職活動における AI 活用が急速に進展している。その用途はエントリーシート作成等の機能的活用に加え、自己分析や悩み相談といった心理的支援へと拡大しつつある。

しかし、支援手段として生成 AI が就活生にどう寄与し得るのか、そのメカニズムは未だ明らかにされていない。

本研究は、就職活動中の自己分析において生成 AI を活用する学生を対象に、AI との対話が心理的支援に与える影響プロセスを明らかにすることを目的とした。

本調査では、就職活動中に ChatGPT を日常的に利用し、悩み相談やモチベーション維持などの「対話」を行っていた 26 卒学生 4 名に対し、半構造化インタビューを実施した。修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下,M-GTA）による分析の結果、22 の概念と 6 つのカテゴリーが生成された。

分析の結果、就活生は【即時性・利便性】を入り口として利用を開始し、対話を通じて心理的安全性を獲得するが、やがて AI の限界に気づき、最終的には【主体的な選択と信頼度の判断】を行ってリスクを受容するという一連の支援プロセスの仮説が生成された。

本研究は、生成 AI の構造的な限界が利用者コア層の主体的な行動によって乗り越えられ、人的支援の課題を補完する心理的支援として成立する構造を明らかにした点に学術的意義がある。また、生成 AI のリスクをコントロールしながら、キャリア支援に組み込むための知見を提示した点に実践的意義がある。